



超我の奉仕

2005～2006年度
国際ロータリーのテーマ
超我の奉仕

2005～2006年度
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：守谷 巖樹
幹事：鈴木 幹雄
会報委員長：長坂 邦雄
例会日：毎週木曜日 PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL:052-211-3803
FAX:052-211-2623
MIL:2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL:http://www.mizuho-rc.jp/

▶ 第1241回例会

2005年9月8日(木) 晴 第9回

～新世代のための月間～

「各ロータリアンは青少年の模範」
(Every Rotarian Exanpieto Youth)

司会：(佐藤一郎会場委員)
体操：ストレッチング(西本 哲会場委員長)
斉唱・唱和：「我等の生業」「四つのテスト」
ゲスト：米山奨学生 金 玫植君
ピジター：京都モーニングRC 則内 健司君
(船渡昭人親睦活動委員) 他1名

▶ 会長挨拶

守谷巖樹会長

JR宝塚(福知山)線の事故から4ヶ月が経ち、その事故原因の中間報告が出ました。直接原因は運転者による人為的なミスという事です。私は、間接的な原因の方が重要ではないかと思えます。鉄道事故がありますと必ず思い出す事があります。



五十数年前になります、私が受けた鉄道工学最初の授業で、教授が「明治政府が立てた鉄道に関する国家百年の計における大きな失敗は、鉄道導入にあたり狭軌(JR 在来線)を選んだ事である。」というお話しをされました。後の技術者からすれば標準軌(JR 新幹線)にして欲しかったという事です。狭軌の鉄道は欧米では軽便鉄道用と考えられていたようです。狭軌では安全性、乗り心地、スピード、輸送能力など標準軌の諸外国と比べ、技術開発の限界があるという事です。

しかし何故明治政府は狭軌を採用したか、その確固たる理由は記録にないようです。英国などから、日本の国土が島国で狭いという事と、建設費などの理由で狭軌を進められたと言う事のようにです。先生は、欧米諸国が日本が将来、経済力や軍事力で力を持つてくることを恐れて、狭軌を取って押しつけたと信じておられたようです。そして先生は「戦争に負けた今、鉄道関係者は、是が非でも標準軌の鉄道で、外国に負けない高速安全な夢の列車を日本で走らせたい。」というような話だったと記憶しております。

すでにその頃、国鉄では南満州鉄道で培われた技術を基盤にして、新幹線の準備が進められていたようで、まもなくその夢を果たしました。その新幹線の東京-大阪間が開通したのが昭和39年(1964)で、この時、明治時代の鉄道導入計画からおよそ百年が経っていました。選挙運動たけなわです。政治家の皆さんには是非真剣に、国家百年の計を立てて頂きたいと思えます。

▶ 出席報告

落合 諭出席委員長

会員75名 出席53名 (出席計算人数56名)

出席率71.43%

9月1日は補填により 87.5%
8月25日は補填により 92.86%
8月18日は補填により 94.64%

▶ 地区情報

遠山義郎地区RAC委員長

- 9/11(日)中村生涯学習センターで開催の「名古屋ゾーン ローターアクトの日」に出席します。
- 9/16(金)ホテル郡上八幡で開催の「R12760地区 地区ローターアクト委員会研修会」に出席します。

▶ 幹事報告

鈴木幹雄幹事

・10月12日(水)12時30分から、名古屋マリオットアソシアホテルにて、4RC合同のガバナー訪問があります。日時、会場が変更となっておりますので、メールボックスに案内を入れてあります。出欠のお返事をお願いします。

▶ 「4つのテスト」唱和

田中隆義職業奉仕委員長

毎月第2例会に唱和することとなりました。田中隆義職業奉仕委員長に続き、唱和を致しました。



▶ 臨時例会変更のお知らせ

名古屋	9/20(火)※			
名古屋西	9/22(木)※			
名古屋南	9/21(水)※			10/12(水)※
名古屋北	9/23(金)※		10/7(金)※	
名古屋東南	9/21(水)			
名古屋和合	9/21(水)※			
名古屋名東	9/20(火)※	9/27(火)	10/4(火)	
名古屋千種			10/4(火)	
名古屋大須	9/22(木)※		10/6(木)	10/13(木)
名古屋栄	9/19(月)※		10/3(月)◆	10/10(月)※
名古屋名南				10/11(火)◇
名古屋昭和	9/19(月)※		10/3(月)	10/10(月)※
名古屋西南		9/29(木)		10/13(木)
名古屋錦		9/27(火)		
名古屋東山			10/6(木)	10/13(木)
名古屋空港	9/19(月)※	9/26(月)		
あま			10/3(月)	
西春日井	9/20(火)	9/27(火)		
尾張中央	9/21(水)			
豊山一城北		9/27(火)		
名古屋葵		9/29(木)※		

(注) ※は休会・その他理由につきピジター受付はありません。
◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。
◇はサイン受付時間が17:30～18:30となります。

ニコボックス

岡村達人ニコボックス委員

- ・9月20日は私の誕生日です。 **近藤 雄亮君**
- ・今月は誕生月です。 **八木沢幹夫君**
- ・9月26日は誕生日です。 **小串 和夫君**
- ・本日長期ビジョン委員会の第1回委員会を開催しました。貴重なご意見をたくさん頂きました。ありがとうございました。

大島 浩嗣君

- ・本日コンサートの案内を入れさせて頂きました。私もその他大勢の一員として歌う予定です。ご利用とお急ぎでない方は、おいで下されれば幸いです。

平野 好道君

- ・ホームクラブの例会欠席が続きましたので。(今年になって2回目だそう)

増田 盛英君

- ・台風や大きな故障対応で忙しく、1ヶ月ぶりに例会に出席します。また、本日は妻の誕生日です。

船渡 昭人君

- ・9月17日は妻、好子の誕生日です。 **長瀬憲八郎君**
- ・9月20日は妻の誕生日です。 **高木 勝君**

委員会・同好会報告

R情報委員会:大島浩嗣委員長

先週、メールボックスにロータリーの友を入れておきましたが、皆様にお知らせするのを忘れておりました。大変失礼致しました。9月号の記事は、シカゴ大会の思い出、今月は新世代のための月間という事で、「若い世紀を担う、若い人々のために」という記事、そして米山奨学事業の基礎知識等が掲載されております。またご一読頂けましたら幸いです。

バナー交換

京都モーニングRCの則内健司君と、守谷会長との間で、バナーが交換されました。



卓話

入江 理君

「地震についてpartII」

最近、地震や災害が頻繁に起こり、地震対策に注目が集まっております。今日はその地震に関して、皆様の家は大丈夫なのかをテーマにお話しをしようと思います。まずは、皆様のお住まいになっている住宅の構造からお話します。住宅の構造は、木造と鉄骨造、鉄筋コンクリート(RC造)のおおまかに3つの工法に分類出来ます。その中で木造に関して見ますと、在来工法というのがあります。それらを更に分けると、寺社、仏閣と一般の住宅に分けられます。寺社仏閣を見ますと壁というもの無く、柱と梁だけで構成されています。柱と梁のみで構成された構造を、ラーメン構造と言います。普通の住宅は柱と梁の間に壁があり、柱と柱の間には筋交いがあります。ラーメン構造というのは、外力を加えますと変形します。変形する事により外の力を吸収します。この様に変形する建物を保つ為に一番重要となる部分は、柱と梁の接合部です。その部分がかかりと接合されていなければ、すぐに倒壊してしまいます。寺社や仏閣を見ますと、柱、梁共にとても太い木材が使われています。更に宮大工の手により、寸分の狂いもない木組みの技術でしっかりと接合されているのです。ところが一般の住宅は柱が細く、地震などが起こるとすぐに潰れてしまいます。ですから一般の住宅では筋交いが必要になってきます。筋交いを入れる事により、三角形が構成され、建物の強度



を増す事が出来ます。これを筋交い構造といいます。鉄骨造もラーメン構造とプレス構造(筋交い構造)の二つに分かれます。鉄筋コンクリート造にはラーメン構造と壁式構造があります。皆様の家は先に挙げましたどれかの工法に該当します。

最近地震が多くなった為に、木造も筋交い工法だけでなく、耐震用の改良型工法も出てきました。他に木造には、北米から輸入されたツーバイフォー工法があります。こういった工法かと申しますと、2インチx4~10インチの木材で壁を作ります。釘を打つ本数も決められております。耐震に関しましては、鉄骨造とRC造は、建築基準法で構造計算をしなければならないと決まっております。構造計算の計算基準は、地震が起きるたびに厳しくなっています。実際に阪神大震災後に基準が厳しくなっております。ですからそれ以降の鉄骨造やRC造は、倒壊の危険性が非常に少なくなっています。問題なのは木造住宅で、構造計算をしなくていい事になっております。何故そうなのかと申しますと、木材は生き物ですので、部位によって強度がまちまちです。ですから計算のしようがないのです。ところが、先の阪神大震災で問題となりましたのが、木造住宅の強度の問題です。木造住宅は基礎がコンクリートで出来ています。土台と柱を緊結する事で耐震性が高くなりますが、古くからある建物は緊結してある箇所が少なく、倒壊した建物が多くありました。もう一つ問題となりましたのは、古くからある建物は、木材に穴を開けて差し込んであるだけのものが多く、屋根と瓦の重みで外れる事はないであろうという事で、緊結されませんでした。その結果、上下の振動に耐える事が出来ず、柱が外れ、倒壊に至った住宅が数多くありました。ですから阪神大震災以降、建設される住宅につきましては土台と柱にプレートをつけて、アンカーボルトで締め付け、緊結するようになりました。そして柱と梁も金具をつけ、接合点が外れないように、施工されるようになりました。

では、地震に強い家というのはどういった家なのかと申しますと、1つ1つの接合部分が、きちんと緊結されているというのが、一番重要になってきます。一般の住宅を見ますと、南側に窓が多く、北側は窓が少ない構造が多く見られます。そうしますと窓の多い南側の強度が弱く、地震の時にはそこから崩れてしまいます。そして、2階が均等にのっていない住宅はバランスが悪く、倒壊の可能性が大いにあります。最近では耐震診断というものがあり、窓などの開口部を壁に、土台と柱の接合部を金具で強化するなど、住宅の何処を強化すればよいのかという診断が、盛んに行われています。また、地震に耐えるための主な構造としましては、耐震構造、免震構造、制震構造の3つの構造があります。耐震構造というのは、地震が起きて、そのエネルギーが加わった時に、倒れたり壊れたりしないという事です。今普通に建てられている建物は全て耐震構造になっています。免震構造というのは、地震の力を出来るだけ建物に伝えないようにする事です。建物と基礎との間にゴムを入れて、ゴムの力で地震の揺れを吸収するというものです。制震構造は、地震があった時にその揺れに対して反対の力を加えて、建物を揺らさないようにしようというものです。ただ、コストがかかりますので、日本ではあまり使われておりません。

最後になりましたが、皆様のご自宅を自己診断して頂きたいと思えます。まず調べて頂きたいのは、家の形が正方形か、あるいは長方形かどうか。南北両方向に平均して壁があるか。基礎が鉄筋コンクリートで出来ているか。基礎と土台がきちんと緊結されているか。2階部分が偏った位置にないか。土台や柱がシロアリに食べられていないか等です。一度チェックしてみてください。

今週卓話

9月15日(木)

会員卓話: 倉澤 寛君

テーマ: 「私の震災体験から」

次週卓話

9月22日(木)

会員卓話: 野崎洋二君 大島浩嗣君

テーマ: 「名古屋瑞穂ロータリークラブ記念小学校開校式に出席して」